

公益財団法人

荒川区自治総合研究所

Research Institute for Local government by Arakawa City

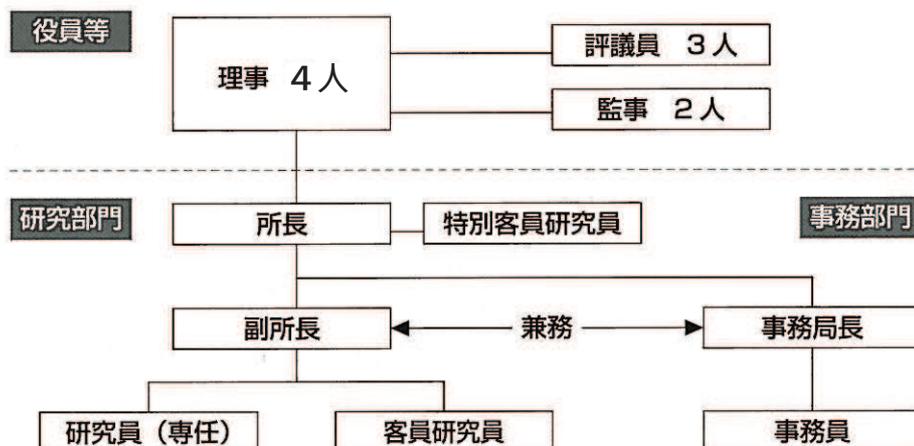


研究所の概要

研究所について

荒川区自治総合研究所（RILAC）は、荒川区が基礎自治体として政策形成力の向上及び質の高い区民サービスの提供を図るために、区が抱える課題等について多角的かつ中長期的な視点に立って調査研究を行い、区に対し政策提言等を行うことにより、地域社会の健全な発展に寄与することを目的として設立されました。

研究所の組織



研究所は、「役員等」「研究部門」「事務部門」で構成されます。

「研究部門」は所長、副所長、研究員、「事務部門」は事務局長（副所長兼務）、事務員で構成されます。

研究員は、専任の研究員と客員研究員から構成されます。客員研究員は、研究上の必要性に応じて、学識経験者等にお願いします。

研究所の機能

研究所は、次の4つの機能を担います。

①調査研究

区の課題や問題等について、多角的かつ中長期的な視点に立って調査研究を行います。

②政策形成支援

区の各部署が抱える課題の解決や戦略的な政策形成に資する助言・提言等を行います。

③人材育成

調査研究活動を通して、職員の総合的能力の向上を図ります。

④情報収集・情報発信

区政に関する様々な情報を収集、整理、データベース化し、提供するとともに、シンポジウムや刊行物等を通して、研究成果、ノウハウ等を幅広く区内外に発信します。

研究テーマ紹介

■ 荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究プロジェクト

「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン（事業領域）を具現化するために、区民の皆さんの幸福実感を測る荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハピネス：GAH）の指標を作成し調査を行っています。区民一人ひとりが幸福を実感できる地域社会を築いていくための提言を行います。



■ 子どもの貧困・社会排除問題研究プロジェクト

未来社会の守護者である全ての子どもが希望を抱き、健やかに成長していくことができる社会の実現にむけて、課題整理とケーススタディ分析を行いました。そして、区がこの問題に取り組む方向性として「あらかわシステム」の構築を提言しました。



■ 親なき後の支援に関する研究プロジェクト

障がいのある人が「親なき後（親が子どもを支えられなくなった時）」にも地域で安心して暮らすために何が必要か、障がい者・保護者、地域社会、行政等が果たすべき役割を提言しました。

それぞれのテーマに関して報告書や書籍を発行しています。

■ 地域力研究プロジェクト



これまで地域で育まれてきたコミュニティを次世代に継承・強化していくとともに、区民一人ひとりが互いに支え合える地域コミュニティのあり方を考察しました。平成24年には、書籍『地域力の時代—絆がつくる幸福な地域社会』を出版しました。

■ CS と職員のモチベーションに関する研究プロジェクト

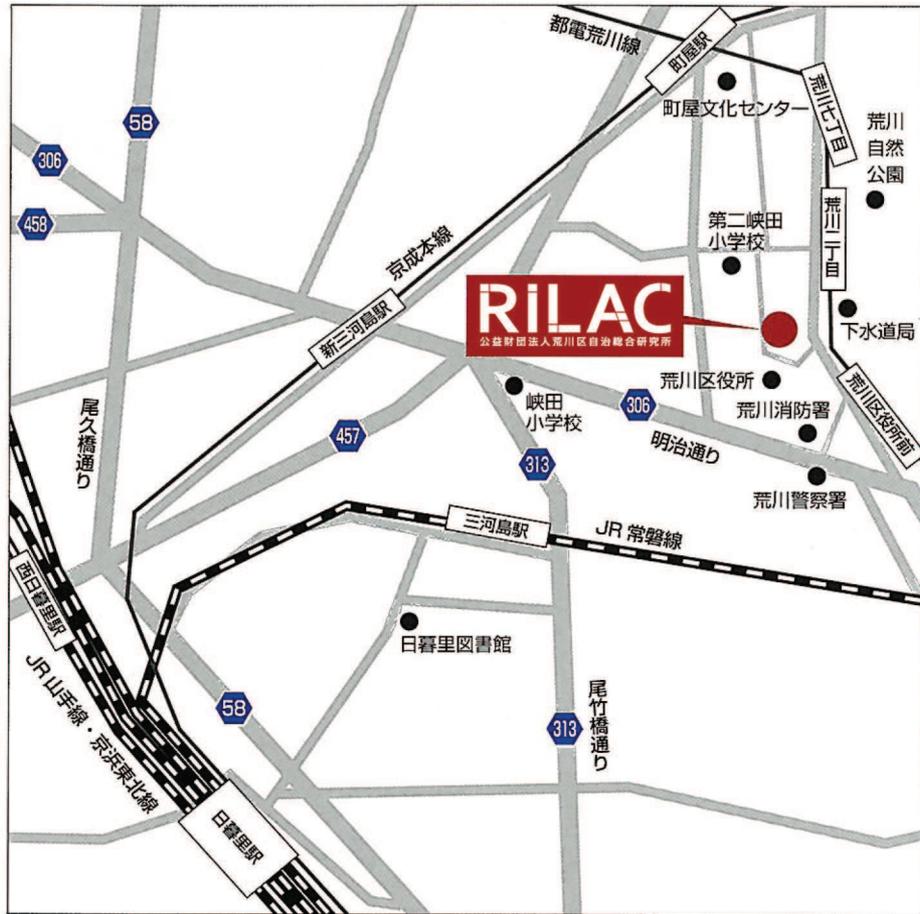


住民に直接サービスを提供する基礎自治体ならではの顧客満足（CS）の向上と、そのために必要とされる職員の意識改革や、動機付けの方策について分析を行いました。その結果、職場のワークモチベーションの向上には4つの戦略変数と6つの人的変数が重要であると結論付けています。

■ 自然体験を通じた子どもの健全育成研究プロジェクト



子どもの健やかな成長のため、自然体験がどのように有効であるか、国内外の実証研究やアンケート結果をもとに考察しました。そのうえで、荒川区における自然体験プログラムを体系的に整理し、より効果的・効率的な事業実施の方法や取り組みの方向性について提言を行いました。



公益財団法人 **荒川区自治総合研究所**

Research Institute for Local government by Arakawa City

住 所 〒116-0002 東京都荒川区荒川 2-11-1

T E L 03-3802-4861

F A X 03-3802-2592

ホームページ URL <http://rilac.or.jp>

メールアドレス info@rilac.or.jp